

公益活動報告書《新規登録団体》

(宛先) 岡 崎 市 長

令和5年12月28日

団体名 特定非営利活動法人こえもじ 代表者 亀井祥子

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。
 なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■ 1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどんな活動をしましたか。

※登録申請前1年間に会員以外の方が参加した活動を実施していないと、市民活動団体登録はできません。

活動日 又は期間	場 所	従事者	参加人数		活 動 内 容	効 果	分類 ※
			会員以外	会員			
R5・1/12	よりなん	5人	参加者 30人	5人	「町内サミット」へ文字表示。当事者はGWへ文字表示を利用して社会参加。	様々な立場の方へ向けての音声認識による文字表示をし、町内で必要と影響を与えた。GWへの当事者参加で地域共生社会実現に近づいた。	① ② ③
5/13	むらさきかん	6人	来場者 80人	6人	「むらさきかんフェスタ」へブース出展し、音声認識アプリの実演と聞こえない人とコミュニケーション体験。	参加者は、文字表示を利用して、聞こえない人とコミュニケーションがとれ福祉の推進に寄与できた。	① ② ③
6/26	岡崎市役所	7人	40人	7人	市会議員対象の講座。利用者の講話、音声認識アプリの使い方と聴覚障害者のコミュニケーション方法を伝えた。	議員は利用者の話しから相互理解を深め、自身で文字表示を体験したことで地域共生社会と福祉の推進に寄与すると認識できた。市民に必要な条例制定の理解へも繋がった。	① ② ③
8/6	友愛の家	6人	参加者 50人	6人	「聞こえない悩み解決へ in おかざき」市民講座へ文字表示した。	聴覚障害者や家族が文字表示から内容を理解し多くを学ぶことができ、福祉の推進に寄与することができた。	① ② ③
8/26	むらさきかん	4人	参加者 40人	4人	「活躍人！交流会～SDGs事例発表～」団体でSDGs事例発表をした。会場全体の文字表示および、当事者はGWへ参加した。	事例発表で地域共生社会での音声認識の文字表示の必要性を伝えることで賛同された団体と交渉中である。地域共生社会の実現にむけての一步となった。	① ② ③
8/26	安城市	4人	参加者 100人	4人	「安城わくわくフェスタ」ブース出展し、音声認識アプリの実演と聞こえない人とコミュニケーション体験。	参加された方は、文字表示を利用し、実際にコミュニケーションが取れた。福祉の推進に寄与することができた。	① ② ③

10/1	豊田市	10人	参加者 100人	10人	「WE LOVEととた」フェスタへ参加。①舞台上の全体文字表示②ブースで文字表示と啓発・交流・説明。	音声認識・要約筆記・手話の団体で固め、必要なコミュニケーション方法を学び使用され多くの交流が生まれた。地域共生社会の実現と福祉の推進に寄与することができた。	① ② ③
10/2	市役所 福祉会館	6人	参加者 100人	6人	QURUWAシンポジウムの全体文字表示。	市民含め多くの企業・行政関係者への音声認識による文字表示を通して、まちづくりには文字表示が必要という地域共生社会の実現ができた。	① ② ③
10/ 12・13	豊田市	12人	参加者 300人	12人	「全国地域共生社会サミット」①全体会および分科会への文字表示②ブース出展	参加した全国の市・社協等の関心が高く、地元へ持ち帰って導入・利用の話しまでできたことで地域共生社会の実現と福祉の推進へ繋げることができた。	① ② ③

※分類 ①人を助ける活動 ②活動の担い手を育てる活動 ③人々を啓発し、団体の目的を広める活動

※活動についてチラシ、報告・記録などがありましたらあわせてご提出をお願いします。

■2 前項1に基づき、活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください（数字に○をつけてください）

高い (5) 4 3 2 1 低い

② 上記の評価をした理由をお書きください

岡崎市内で以前から難聴・中途失聴者支援に取り組んでいる当事者団体や要約筆記支援サークルの関心が高まり、主催する行事に要約筆記と音声認識による文字表示を実施し、環境整備の範囲が広くなり好評だった。また費用面から市派遣制度が利用できない多様な人々が集まる行事に文字表示の相談や依頼が多くあるなど、岡崎市内の他団体の活動に多くの影響があった。